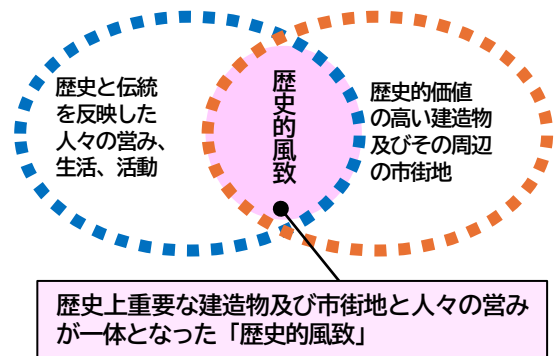


奈良市歴史的風致維持向上計画（第2期）の概要について

【歴史的風致とは】

「歴史的風致」とは、「地域におけるその固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動とその活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地とが一体となって形成してきた良好な市街地の環境」と定義されます（地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（歴史まちづくり法）第1条）。つまり、歴史的風致とは建造物と人々の活動を一体的に捉えた概念といえます。



【歴史的風致維持向上計画とは】

歴史的風致維持向上計画は、歴史まちづくり法に基づき、地域の歴史的風致の維持向上を図るために市町村が作成し、主務大臣（文部科学大臣、農林水産大臣、国土交通大臣）が認定するものです。

計画では、核となる国指定文化財と、それと一体となって歴史的風致を形成する周辺市街地を重点区域に設定し、景観施策等と連携しながら、ハード・ソフト両面の取組（事業）を位置付け、歴史・文化を活かしたまちづくりを進めます。

奈良市歴史的風致維持向上計画（第2期）では、第1期計画（計画期間：平成27年(2015)4月～令和7年(2025)3月）に引き続き、今後10年間の歴史的風致を維持向上するうえでの目標や方針を定めています。



奈良市歴史的風致維持向上計画（第2期）の計画期間：

令和7年（2025）4月～令和17年（2035）3月

【策定の目的】

- 1 歴史・文化を活かしたまちづくりの仕組みを整えることにより、市民主体の取組と多様な主体の連携による効果的な施策の展開を図る
- 2 歴史・文化の豊かな生活環境を保全することにより、市民の誇りや愛着を育むとともに、産業や観光の振興による地域の活性化につなげる
- 3 歴史的風致や歴史的風土の本質的価値を守り、育み、活かすことにより古都奈良の歴史・文化の魅力のより一層の向上を図る

維持・向上すべき「奈良市の歴史的風致」

和銅3年(710)の平城遷都により、現在の奈良市に古代日本の都、平城京が置られました。

古代の平城京や大社寺がつくりだした「都」の空間は、その後の都市形成の基盤となり、各時代の特徴を反映した多様な活動の展開を促し、それらが折り重なる重層的な「歴史的風致」をつくりだしてきました。

計画では、「自然・神仏を敬う」「歴史を尊び、風土を愛でる」「豊かな生活を支える」の3つの視点から、10の歴史的風致を設定しています。

古都奈良の歴史的風土を舞台として、それぞれの時代や地域において育み、成熟させてきた風格と魅力のある歴史的風致

自然・神仏を
敬う

歴史を尊び
風土を愛でる

豊かな生活を
支える

【自然・神仏を敬う】

奈良市では、四季を彩る風物詩となる伝統的な祭礼や行事が、一年を通じて市内各地で執り行われ、季節の移り変わりを感ずることができます。

また、それらの伝統的な祭礼や行事を通じて、古くからの人々の自然や神仏に対する畏敬の念を感じとることができます。

- (1) 古都奈良を代表する祭礼・行事にみる歴史的風致
- (2) 地域の祭礼・行事にみる歴史的風致
- (3) 民間信仰にみる歴史的風致



【歴史を尊び、風土を愛でる】

古都を起源とした様々な歴史文化遺産やそれらがつくりだす風土を遊覧の対象として探訪したり、価値のあるものとして保存し、さらに、題材として文学・芸術作品を創作するなどの活動は、古都奈良の歴史を尊び、風土を愛でる思想のもとに展開されているといえます。

- (1) 社寺・名所・旧跡への探訪にみる歴史的風致
- (2) 文学・芸術活動にみる歴史的風致
- (3) 平城宮跡の保護活動にみる歴史的風致
- (4) 奈良公園にみる歴史的風致



【 豊かな生活を支える 】

奈良に暮らす人々は、各時代において、代々守り伝えてきた豊かな歴史や文化、自然を巧みに利用し、工芸や商工業、観光産業などを生業として発展させるとともに、茶の湯などの文化的活動を生活のなかに取り込むことにより、豊かな生活環境を自ら築きあげてきました。

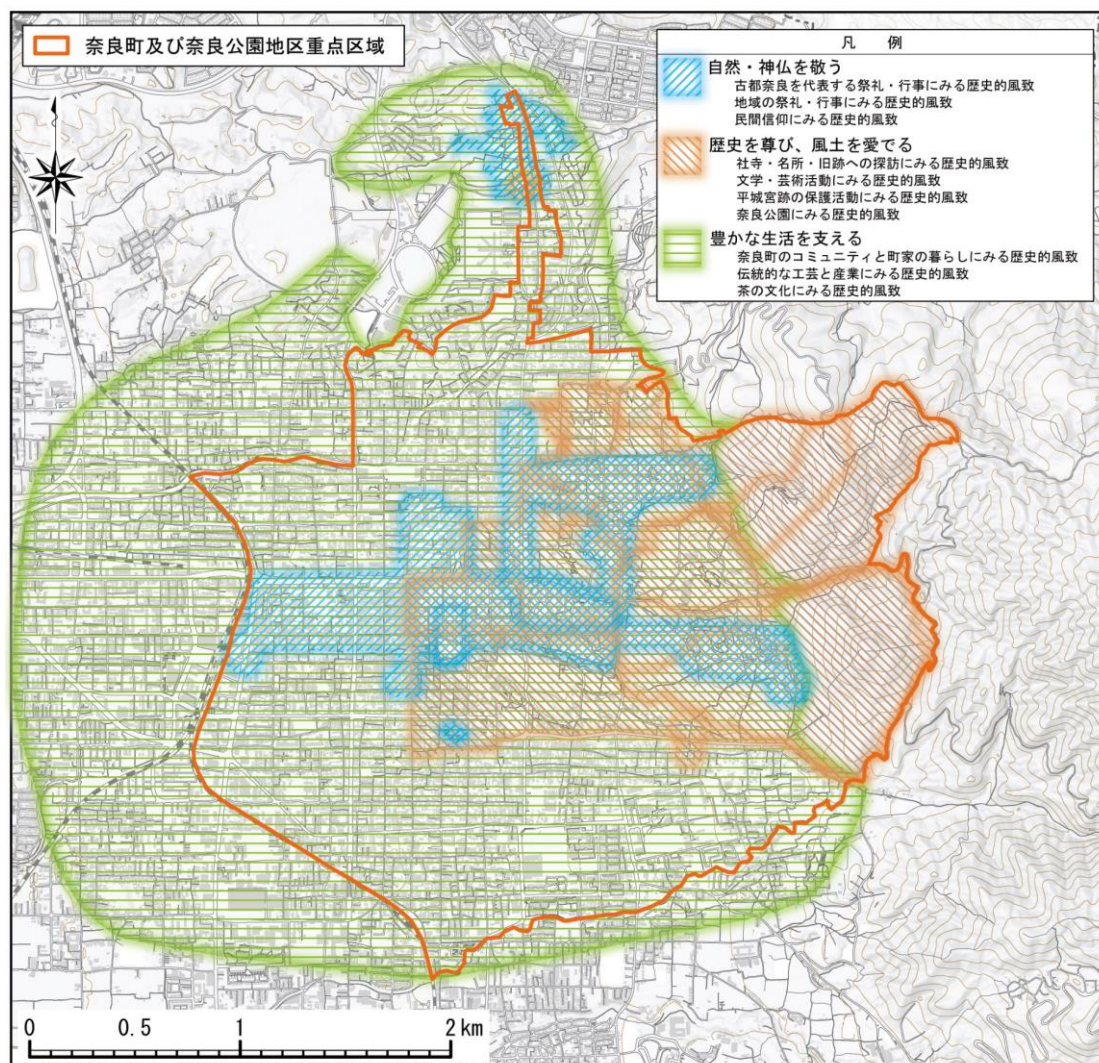
そして、現在もそれらの活動が生活のなかに息づき、人々の日々の生活を豊かなものにしています。

- (1) 奈良町のコミュニティと町家の暮らしにみる歴史的風致
- (2) 伝統的な工芸と産業にみる歴史的風致
- (3) 茶の文化にみる歴史的風致



【 歴史的風致維持向上計画の重点区域 】

重点区域の歴史的風致の維持及び向上を図ることにより、周辺の各地域での伝統的な生活文化の継承などにつながり、市域全体の歴史的風致が向上されることが期待できます。



重点区域の範囲と歴史的風致

歴史的風致の維持・向上に向けた取組方針と主な事業

【 歴史のつながりや重なりを感じられる「場」づくり 】

奈良の古くからの歴史を物語る歴史的建造物を大切に守り、受け継いでいくとともに、その周辺の景観の保全・形成を進めることにより、奈良の歴史のつながりや重なりを感じられる「場」を守り、活かし、伝えていきます。

氷室神社舞殿(拝殿)整備事業



奈良のシカ保護育成事業



歴史的風致形成建造物
保存整備事業



【 伝統・文化を守り、活かし、伝えていく「ひと」を育む 】

伝統的な祭りや行事、伝統産業・工芸などは、地域住民の手により大切に受け継がれてきており、今後も、地域住民が主体となって守り、活かし、伝えていくことが求められます。そのため、それらを誇りに思い、やりがいを感じ、守っていききたいという機運を醸成し、伝統や文化を自ら守り、活かし、伝えていきます。

世界遺産学習事業



なら工芸館活用事業



【 歴史的風致としての「一体的な価値」の共有 】

神社や寺院、その周辺の集落や市街地の歴史的な建造物や自然環境等と、祭礼行事、伝統産業・工芸などの伝統的な活動とが一体となって、より一層それらが魅力的なものになるという認識を共有し、それらを地域の活性化や観光振興などのまちづくりに展開していきます。

観光情報発信事業



観光案内板・名所解説板等
整備事業

奈良町にぎわいの家活用事業

